

標十五句

松岡隆子選

覚えなき腕の傷あと半夏雨
涼しさや交す言葉の風となり
半夏生夢の中ではずつと雨
青き実を見上げてみると梅雨明くる
音無しは鬼灯市にすぎみ水馬
一端は鬼灯市にまぎれけり
水鶏鳴く母の遠忌の膳用意
行かぬ筈の鬼灯市に行つてくる
ともかくも一膳よそひ日の盛
立ち上がる草の匂ひや梅雨晴間
をさな子の胸まで濡れて夏旺ん
余生とふ雨後のしづけさ夏椿
夏うぐひす夫の遺せる切手貼る
彼方まで眺めてしまふ蓮の池
スカートがダッシュしていく大夕立

染谷晴子
唐木和世
川上昌子
平沢千恵子
広渡詩乃
渡辺あつ子
高橋愛子
鈴木綾
相馬晃一
中嶋孝子
町田洋子
醍醐喜美枝
松浦いね子
梶浦道成
田幡栄子